



◆ 水谷久美子 議員

新食肉施設候補地を質す

町長 建設整備推進協議会で決定

推進協議会、議会への厳しい情報規制の中で候補地決定と広報養老12月号で掲載された。

問 地元住民への説明もない中、広報の内容は、正確さに欠き町の勇み足ではないか。

答 推進協議会での決定を受け、広報でお知らせした。

問 町の地元地区と進捗は。

答 沢田・桜井地区と考えている。現在、地区区長会と調整を図り地権者 沢田・桜井・上方・五日市・竜泉寺の役員へ説明している。

問 概算見積43億は、長期の起債発行。各課予算の削減、公共料金の値上げなど町民生活に直結するが、予算的な議会への対応は。



建設候補地である岐阜製油協業組合とその周辺

答 地元地区等への説明段階であり、あくまで予定であるが、令和5年には、用地取得（測量・補償算定・不動産鑑定・地質調査）を計上したい。

問 地元代表者は、連日の区民の声に多大な心労があると察するが。

答 該当地区の環境変化への懸念を把握し、対策に努める。

図書館の移転・地震対策は

町長 早急に対策を施す

東日本大震災以降、公立図書館における危機管理対策が検討されている。図書館の蔵書収容能力は7万冊。旧町民プールへの移設を望む。

問 図書館資料の落下など利用者の安全確保は。

答 震度4程度では、転倒が無かったが、高所からの図書落下の危険があり、早急に見直し・検討したい。

問 町立図書館は、建設から31年が経過し、3万3千冊余の収容能力を超過している。旧町民プールへの移設や老朽化している児童館、狭間で借地料が予算化している保健センターなど、複合施設としての利用を提言する。

答 令和3年8月から公共施設検討会を設置し、利活用の方針を協議してきた。保健センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会、老人福祉センターの移転を検討することとした。



養老町図書館 陳列された本棚

問 旧町民プールでの児童図書の充実や、病児・病後児保育の検討も望みたい。

答 親子や児童園児への対応施設としては、地域福祉計画策定委員会等で協議し決定したい。

老人クラブの活性化へ

町長 クラブのメリットを周知



◆ 野村 永一 議員

問 軽スポーツ大会には多くの会員が参加され、好評だったことを踏まえ、新しい会員を勧誘しやすいようなプログラムの計画をし、メリットを周知していく。また、単位老人クラブの統合や、自治町民会議との連携による役員不足の解消、対象年齢の検討など、老人クラブの皆さんで主体的な運営方法を検討していただきたい。

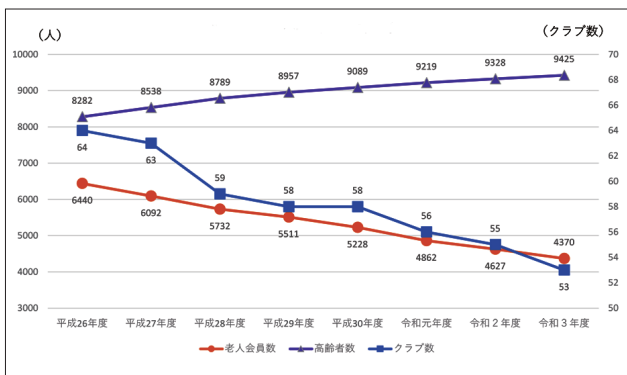
問 老人クラブの会員を増加させる手立ては。

老人クラブは、地域福祉の充実に大きな役割を担っている重要な自主組織であるが、数や会員数が激変している。

答 養老町老人クラブ連合会の要請があれば検討する。

問 養老町広報に「養老町老連」のページを設けることが出来ないか。

答 広報のページの増版はできない。

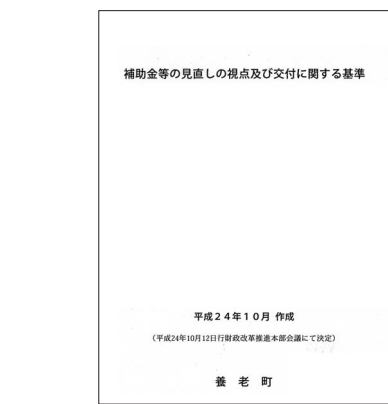


老人クラブ会員数等の推移

補助金等の基準の見直しは

町長 次期行財政改革プランで再検討

問 補助金等を見直す体制の、補助金等審査会は。



補助金等の見直しの視点及び交付に関する基準

問 食糧費についての見解は。

答 補助対象経費となる食糧費は、会議等のお茶代や講師等の弁当代、あるいは事業そのものが飲食に関わるものなど、特定の要件を満たす場合のみ。慰労的な飲食や懇親会は、補助対象外経費として計上することなく、全額を会員で負担する。

問 基準の見直しは。

答 本年度を以って終期を迎える次期プランで、改定について検討。

平成27年に策定された「養老町行政経営改革プラン」に基づき補助金の見直しも取り組んできたが、はや10数年経過した。

て学識経験者4名、各種団体の構成員、または公募委員として6名に外部、あるいは住民視点からの意見を拝聴。